

しゅん時の判断 救った命

2011（平成23）年3月11日、午後2時46分、マグニチュード9.0の東北地方太平洋沖地震。岩手県釜石市の釜石東中学校の生徒たちは、何度も行ってきた合同避難訓練どおり、鵜住居小学校の児童の手を引いて避難しました。津波で校舎3階までしん水しましたが、校内にいた全員が無事に避難することができた中学生の行動を追ってみましょう。



1 14時46分～50分 「ゆれが長いし、強い。校舎つぶれるかも」

足が海の方へ引っ張られるように地面が大きくずれた。3年生の菊池さんは、プレート境界型の地震だから津波がくると直感した。

グラウンドに整列しようとする生徒に、先生たちが「にげろ」「走れ」と声をかけた。

3年生の山本さんは、みんなが校門の方へ走り出すのを見て、全速力で駆け出した。鵜住居小では、津波のとう達が早いかもしれないと判断し、児童を校舎3階に避難させていた。しかし釜石東中の生徒が走るのを見て、校外へのゆう導を始めた。



2 14時50分～15時 「全速力で校門の外へ。小学生といっしょに」

菊池さんは、鵜住居小をすぎた辺り、大津波警報を知らせる防災無線を聞いた。この辺りは津波が大きくなりやすい地形だから、指定されていた避難所のございしょの里も危ないと思った。

山本さんは、ございしょの里に訓練より早く着いた。標高は学校と数メートルしかがわらないし、川の近くなので、津波がさかのぼってくるのではないかと思った。



3 15時～15時10分 「がけくずれが起きている。とんでもないことが起こる」

小学生もございしょの里に向かっていった。着いた者からございしょの里で整列した。

学級委員の点呼の後、菊池さんは、がけくずれも気がかりだった。クラスメートと、「ここは危ないよね」と話し合った。「もっと上に上げたほうがいい」と心配する声が聞こえた。



4 15時10分～ 「もっと上に。高台へ走る」

ございしょの里に小中学生が全員避難した。

「ここも危ない」先生から、「中学生は小学生一人と手をつないでここより高台のやまざきデイサービスに上げて下さい」と指示が出た。

菊池さんは、4年生ぐらいの男子と手をつないで出発した。ゴゴゴという音を聞いた。小学生には、「だいじょうぶだからね」と声をかけながら速足で歩いた。



▲やまざきデイサービス

(写真提供 浦山文男さん)



▲「ございしょの里」を出発し、手を取り合っ

て避難する児童・生徒 (写真提供 高村幸男さん)



5 15時17分～30分

「ふり返るとけむりが見えた」 「街がない。走れ、走れ」

列の前の生徒が走り出した。山本さんも走りながらふり返ると、海の方にけむりが見えた。デイサービスのちゅう車場にと到着すると、津波が街をのみこんでいくのが見えた。

菊池さんは、ちゅう車場で男子生徒がさわぐのを聞いた。次のしゅん間、海の方を見て、街がないことになんかとした。

「にげろ！ 自分の命は自分で守るんだぞ」と先生がさげんだ。

恋ノ峠の手前に急な坂がある。幼い子ども二人の手を引く母親に気づいた生徒が一人をおぶった。サッカー部の生徒は、保育所の子どもを乗せた手おし車を職員に代わっておした。

最初に避難していたございしょの里が津波にのまれたのは、全員がはなれて約5分後のことだった。



6 15時30分～

生徒たちは恋ノ峠にたどり着いた。津波はやまざきデイサービスの手前で止まった。

ひらの 平野校長の言葉

今回のことは「釜石のきせき」と呼ばれていますが、わたしたちにとっては「きせき」ではありません。日ごろの訓練や学習があったからこそ、想定外の津波にもかかわらず無事に避難することができたのです。そのことを兵庫のみなさんにわかってほしいと願っています。



▲鵜住居小学校の校舎につきさった自動車 (写真提供 毎日新聞社)

毎日新聞(2011年8月12日)の記事をもとに、二人の中学生の様子を中心に釜石東中学校の生徒の行動を追いかけてきました。